大創・DSCセミナー

働き方改革と高付加価値

設計ソフト「SAKURA」効率化のカギに

抜型および関連資材メーカーの大創㈱（大阪府大東市）は10月30日、幕張メッセ（千葉市）で、DSCセミナー「ミマキエンジニアリング×大創コラボセミナー」を行なった。紙器段ボール企業の経営者や現場担当者を中心に参加し、抜型や小ロット加工をテーマに研鑽を深めた。

「パッケージ設計定型システムSAKURAの活用方法」は、長江光史大創トムソン加工アドバイザーが講演。同システムは、紙器段ボールや抜型の製造に必要な図面を、CAD知識が無くても簡易かつ効率的に作成出来ることなどが評価されており、近年の労働問題解決に大きく寄与出来るものと位置付けた。

19年4月からの年次有給取得義務化から、時間外労働の上限規制、残業代引き上げなど施行を控える中、多くの紙器段ボール関連企業は「この人が欠けたら会社はどうなる？」というギリギリの操業を強いられた事例が多いと認識。これら企業が人員募集をかけ、応募どころか問合せさえ一件もない業界事例を挙げ、新卒や経験者など「一般求人は期待できない」と断言、社内体制を変えるしか方法はないとした。

一例として設計士採用時のワークフローを挙げ、まずパッケージ自体のノウハウ伝授が難しく、クライアントへの提案は1日がかり、提案して採用は1～2割で残りはボツ、これら繰り返しで心が折れて辞めていく悪循環を解説。同システムを導入し、豊富な定型図面に「長面」「幅面」「深さ」の数字を入れるだけで図面が完成、熟練者と同レベルの設計が可能になるとし、システムを実演し数分で完成させ効率化を証明した。

設計士だけでなく、社内全体の効率化も解説。図面作成できてもCADではないため「CADのノウハウ不要で、素人でも当日から使える」とし、高齢者や外国人など人材の募集対象を拡大でき、ライセンス保持者なら誰でもネットで利用できるため、営業マンなら、外出先での作業が可能になると説明。これによりクライアントの目の前で図面作成し採用率アップ、誰でも引き継げることでのシフト柔軟化など各種メリットを列挙。自らも「残業したくないので、出張先のホテルとかで作業している」など利用を推奨した。

「インクジェットプリンタとカッティングマシンの活用方法」は、ミマキエンジニアリングJPマーケティング部IPグループの田邉浩之氏が講演。ミマキ社が展開するインクジェットプリンタ（以下IJ）とカッティングマシン（以下CM）について、活用法など詳細に解説した。

参加者には、新製品「メタリックインク」でIJ印刷した金属調の輝き溢れる印刷紙器などサンプルを配布。IJは主に小ロット対策との概念があるが、印刷精度向上による高付加価値化、廃インクが少ないことでの環境性、CMは多機能化や精度向上が進み、IJとの連携で様々な提案が可能になることなど解説した。近年はクライアントの導入例が増加し、誰でも使用できる一例として、キャバクラで指名時にツーショットを撮影、IJで印刷、CMでカットしドンペリの瓶に貼るサービスを紹介。様々なアイデアを実現し、利益を上げている状況を報告した。

大塚雅一大創社長＝写真㊤＝は挨拶で、抜型および関連資材メーカーとして、顧客の生産性や働き方など「何か寄与出来ないか、何か成功に繋げられないか」と思い立ち、全国で展開してきた経緯を報告。その上で「顧客の声に耳を傾け、還元していくのが当社の企業意義。今日この貴重な時間が、皆様のヒントになり、お力になれれば嬉しい」と呼びかけた。

大創

大創は、近年のテーマ「働き方改革」への対応をテーマに、各種製品や手法を解説した。

クラウド型パッケージ設計定型システム「SAKURA」は、CAD知識が無くても、登録済みの定型図面に数値を入力するだけで図面を作成出来るもの。ライセンス所持者ならネットで誰でも使用できるため、帰社しての残業削減、提案の採用率アップにも寄与する。本展示会では、定型図面を増加させ、図面の回転など新機能を公開。実際に図面を作成するデモを見た来場者からは「これは（図面作成が）早い」「CADと専門人員にかかる費用や採用難を考えれば、絶対に必要」など導入に前向きな意見が聞かれた。